

初恋は坂道の先へ

初恋は坂道の先へ



第1回
「本の物語」大賞
大賞
受賞作

大注目! 新人による青春小説×ミステリー
書店員審査員、読者審査員の支持を得て単行本化!
彼女が消えた。一冊の本とともに。

第1回ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞(大賞)受賞作 初恋は坂道の先へ 藤石波矢

*ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞は、「本にまつわる物語」を募集する新人文学賞。
ダ・ヴィンチ文学賞の発展型として新たにスタートしました。創刊20周年を迎えた本の情報誌「ダ・ヴィンチ」が、
本好きならば誰もが心惹かれる「本にまつわる物語」を、新たな才能とともに生み出します。

■ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞 原稿大募集!

本がストーリーの中で重要なアイテムだったり、書店や図書館が舞台だったり……。本賞の応募作品には、具体的には次のいずれかを含んだ内容であることを求めます。多くの読者を魅了してください。

- 本が重要なアイテムとして登場する
- 作家が重要な人物として登場する
- 書店、図書館、出版社など本のある場所が舞台
- 物語の内に物語があるなどの仕掛けがある

第2回募集締切 2014年7月31日(木) 24:00
 *ウェブサイト「ダ・ヴィンチニュース」内の応募フォームへのエントリーおよび原稿のメール送付での応募となります。
原稿枚数: 400字詰め原稿用紙換算で、250~350枚
賞: 大賞 賞金100万円、および受賞作の書籍刊行
 ※優秀賞、読者賞、特別賞なども別途検討いたします。

主催:株式会社KADOKAWA メディアファクトリーブランドカンパニー ダ・ヴィンチ編集部
詳細は、ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞特設サイト <http://ddnavi.com/hnm/>

『初恋は坂道の先へ』著者の藤石波矢さんに質問です。

- Q1 この作品を書くきっかけはどんな事でしたか?
本の物語というテーマを見た時、ぼろけた本のページが空から落ちてくるシーンが浮かび、そこから物語を考えました。
- Q2 執筆の際に、ご苦労されたり工夫された点はありますか?
最初の設定や伏線を忘れて、後半あわてて修正することが時々ありました。あと作者の実体験とほど遠い中学生の描写、難しかったです。
- Q3 一番気に入っている“読まれドコロ”はどこでしょうか?
ラストのほう、坂道関連の場面の登場人物の行動だと思います。王道!って感じにできたかと。
- Q4 どんな人に読んでもらいたいですか?
1行目を読んで少しでも続きが気になってくれた方!ぜひ。
- Q5 思い出に残る本や作家さんはいらっしゃいますか?
羽海野チカさんの「ハチミツクロビー」 東野圭吾さん 伊坂幸太郎さん 飛島井千砂さん
思い出に残る、というが現役バリバリで好きな作家さんたちです!

キリトリ線 ※POPとしてお使いください



審査員の選評を読んで、
書いていく自信が湧きました
お目に止めて頂き有難うございます。
直球で書いた「本の物語」です。
気恥ずかしいタイトルが読後には
好きになってもらえていたら
嬉しいです。

藤石波矢

後半の仕掛けにうなること間違いなし! 大注目の新人による 青春小説×ミステリー

初恋は坂道の先へ

1,000円(税別) / 四六判 / 並製本 イラスト=釣巻和 発行:株式会社KADOKAWA



書店員審査員・読者審査員の声

僕はこの物語を読んで感じた気持ち形容する言葉を知りません。ただただ、ジタバタするほど面白かった。そして泣いていました。この物語が大好きだと世界中に叫びたくなりました。

八善岡山シンフォニービル店
加藤一博さん

ありがた々な恋愛ものかと思いつきながら読んでいたら見事にだまされた。辻村深月や朝井リョウを最初に読んだ時を思い出した。見事な構成で物語が加速していく後半ではぞくぞくしっぱなしだった。

紀伊國屋書店北千住マルイ店
片山峻太郎さん

登場人物はどこにでもいる、そんな個性も強くない、特別に何か持っているわけでもない、なのに一人一人が生きて生きていて、しっかりと心に残る。

旭屋書店船橋店 夏目鈴子さん

やられた！ と声を出してしまいました。私も小説を読んで励まされたのおかげで出逢えた人もいます。感情移入して夢中で読んでしまいました。

18歳・女性・高校生

テンポが良くて、主人公たちの会話に思わずくすりと笑ってしまいます。まるで夏休みが終わる前の青春の1ページを切り取ったような、そんな爽やかな読後感の、不器用なふたりの心震えるラブストーリーだった。

22歳・女性・大学生

少女漫画のような甘めの話だけど、爽やかな描写で淡い水彩画のような雰囲気を感じられました。

30歳・女性・会社員

「純愛」「青春」が似合う作品であり、様々な愛の形——親子愛、友情愛、恋人愛——が見られる。誰しもが持つ不安や苦悩など「人間らしい姿を描いている。映像化して欲しい作品。」

28歳・女性・主婦・パート

青春小説らしい清々しさと、びっくりの仕掛けと謎解きがあつて、おもしろく読んだ。○○のシーンは、十年の年齢の差がまるで体感するように感じられて、緑と青空と陽光を反射する川面のイメージとともにとても印象に残った。若い読者には共感する部分がたくさんあるだろう。

オリオン書房ノルテ店
辻内千織さん

クライマックスは私の予測を完全に裏切つて、とても面白かったです。王道の夏祭りの背景も青春恋愛つってついで、読み終わった後はとてもすがすがしい気持ちになりました。

T S U T A Y A 城西店 脇園学さん

ひとつの作品を読んでいるのに、そこからどんどん別の物語が枝葉のように伸び広がってゆく感覚だった。それがまた、ひとつの物語として大成する。行き着いたのは、坂道の先だったのかもしれない。物語と一緒に、読者である私も、坂道の先の景色を見させてもらった気がする。

紀伊國屋書店新宿南店 吉澤紫織さん

色んな出来事を経験して成長していくさまが手に取るように見えて、目の前にあるキュートな恋愛を「頑張れっ」と応援したくなるくらい引き込まれました。読後は「爽やかな気持ち」の一言です。

44歳・女性・会社員

小説のもつ力や小説を書くこととする気持ちが登場人物を通して伝わってきた。10代、20代の間関係の摩擦や葛藤、出会いの面白さが描かれていてよかった。

41歳・女性・会社員

誰かがいれば色んな重み加わるけど、その分踏み出す勇気を与えてくれるような形でパートナーは大切なものだと改めて思わせてくれた。

21歳・男性・大学生



登場人物の会話がいきいきしていい。短い作品の中でいくつもの恋愛を交錯させ、読み応えがあった。読後さわやかな風が吹く気持ちよい作品。

ヴィレッジヴァンガード
トレッサ横浜店 花田菜々子さん

話が進み○○だと分かった時は衝撃的で、良い意味で裏切ってくれたと思いました。各々のシーンが「初めて」という初々しい体験の連続でいて、ラストですっきりまとまっていたとても嬉しい気持ちにさせてくれました。

ブックエクスプレス
テイヤ西船橋店 鈴木智子さん

「本」というものは、人を結びつけたり人の心を救ったりするすごいものだということが、まっすぐ書かれていて嬉しくなりました。

ブックマンズアカデミー高崎店
江原朋子さん

彼女が消えた。一冊の本とともに。

小学校の教師をしている25歳の研究。恋人の品子に一冊の本が届いたある夏の日、彼女は失踪した。本の贈り主は品子が以前話していた忘れられない初恋相手」なのか？

場面は変わり、中学2年生のしなこは敬愛する小説家、日向先生の家に通っていた。日向には、海人という不登校の孫がいる。彼は本をばらばらにする謎の行動をしており、その取っつきにくい性格に初めは馴染めなかつたが、徐々に交流を深めていく。

今をしつかり生きて未来につなげることに、過去に起きたことは意味がある。それぞれの世代がそれぞれの視点で風景を見つめ、生きていく。眼差しが優しく、未来が明るく感じられた。

36歳・女性・公務員

ふたつの世界が融合していく中で、小さな幸せがたくさん生まれていく、そんな作品だった。何気ない日常のカラーージュが、最も心を動かすのだ。そしてこの作者はその切り取り方が格段に上手い。

19歳・男性・大学生

魅力的な人物が多く、その後の物語や登場する作家さんの話を読みたいと思わせるような内容でした。

30歳・女性・会社員

読み終えた後に、不器用な自分も少しだけ好きになれた気がする。

29歳・男性・販売業

品子はなぜ失踪したのか？ 中世時代の「初恋」とは？ ふたつのパートは終盤で見事に絡み合い、目をつむって走り抜けると10年後の自分が見える、という伝説のある「未来坂」でのエピソードにつながっていく。



ふじいし・なみや
1988年栃木県生まれ、東京都在住。大正大学文学部、東京ヒジュアルアーツ映画学科卒業。
脚本の新人賞などへの応募を重ねたのち、数年ぶりに書いた小説「初恋は坂道の先」で第1回「ワイン」本の物語」大賞を受賞。



初恋は坂道の先へ
藤石波矢 イラスト=釣巻 和
1,000円(税別)／四六判／並製本
発行：株式会社KADOKAWA